Japan Foundation for
Regional Art-Activities

地域創造レター

News Letter to Arts Crew

7月号—No.326
2022.6.25
（毎月1回25日発行）

「iichikoグランシアタ・ジュニアオーケストラ フェスティバル」（大分県大分市）

●目次／*contents*

特集「2022年夏のフェスティバル」

フェスティバルカレンダー……2

夏休み子ども企画カレンダー……5

地域通信……7

財団からのお知らせ……10

「地域創造フェスティバル2022」参加者募集／令和5年度「リージョナルシアター事業」実施団体募集／令和4年度「地域創造大賞（総務大臣賞）」募集開始／令和5年度「公共ホール音楽活性化事業」（導入プログラム）・「公共ホール音楽活性化支援事業」（支援プログラム）実施団体募集／「公共ホール邦楽活性化事業」令和5年度実施団体募集・令和4年度全体研修会報告／令和5·6年度「公立美術館活性化事業」募集

今月のレポート……16

熊本県宇城市
不知火美術館・図書館　KOSUGE1-16《未完星［mikən-sei］》

発行元：一般財団法人地域創造
〒107-0052 東京都港区赤坂2-9-11
オリックス赤坂2丁目ビル 9F
Tel. 03-5573-4066　Fax. 03-5573-4060
URL: https://www.jafra.or.jp/

特集「2022年 夏のフェスティバル」

恒例の「夏のフェスティバル特集号」の季節となりました。話題の大型企画から定番イベントまで、一挙にご紹介します。

※新型コロナウイルス感染症の影響により、イベントが中止となる場合や、開催内容・日程等が一部変更となる場合がございます。最新の情報は主催者の発表情報をご確認ください。

写真

左上：「越後妻有 大地の芸術祭 2022」（出展作品：加治聖哉《廃材水族館：竜ヶ窪》）Photo: Kioku Keizo

右上：「りっかりっか＊フェスタ 2022」（公演作品：エーシーオー沖縄『玉津の恋～組踊 手水の縁より～』）

左下：豊田市ジュニアオーケストラ

右下：富士見市民文化会館キラリ☆ふじみ「サーカス・バザール」

2022年7月～9月 フェスティバルカレンダー

ジャンル別に、開催地、日程、事業名、事業内容の順に掲載しています。
会は会場、問は問い合わせ先です。
（➡ は地域創造助成事業）

音楽

●札幌市　7月16日～8月2日

パシフィック・ミュージック・フェスティバル札幌（PMF）2022

オーディションで選ばれた世界各国の若手音楽家（アカデミー生）が札幌に集まり、首席指揮者のラハフ・シャニをはじめとするトップレベルの教授陣による指導を受ける国際教育音楽祭。海外勢も参加するPMFオーケストラは3年ぶりの編成となる。期間中は市内各所で演奏会が約25公演行われるほか、東京での演奏会も開催される。

会札幌コンサートホールKitara、札幌芸術の森ほか　問パシフィック・ミュージック・フェスティバル（PMF）組織委員会
Tel. 011-242-2211

PMFピクニックコンサート

●秋田県秋田市、潟上市

7月8日～11月15日

秋田・潟上国際音楽祭

海外から演奏家を招き県民との交流を深め、地域を盛り上げることを目的とした音楽祭。第1回となる今年度は、音楽ホールや酒蔵などさまざまな会場で、計8公演に総勢約100人が出演する。7月9日の「秋田ガラ・コンサート」では、秋田県出身歌手4人を中心に、オペラやカンツォーネの名曲、秋田県民歌などを歌い上げる。

会秋田アトリオン音楽ホール、あきた芸術劇場、ギャラリーブルーホールほか

問秋田・潟上国際音楽祭実行委員会　Tel. 018-874-9215

●新潟県佐渡市　8月19日～21日

アース・セレブレーション2022

今年で35年目を迎える野外フェスティバルが佐渡島の小木地区を中心に開催される。特設ステージでの太鼓芸能集団「鼓童」とギタリストMIYAVIによる野外ライブをはじめ、ハーバーマーケットには個性豊かな店が立ち並び、木崎神社フリンジでのパフォーマンス、太鼓や楽器づくりのワークショップなど、さまざまなアクティビティが展開される。

会小木みなと公園、木崎神社ほか　問アース・セレブレーション実行委員会　Tel. 0259-81-4100

●富山県南砺市

8月26日～28日

スキヤキ・ミーツ・ザ・ワールド2022

「音楽を通しての異文化交流」をテーマに、世界各地のさまざまな文化との出会いと交流の場をつくりながら、地域に根差した音楽文化の創造を目指す市民参加型フェスティバル。今年はカナダ、モロッコ、キプロス、アルゼンチンほか、世界的に高い評価を受ける国内外のアーティストによるコンサートやワークショップ、パレードなどの開催を予定。

会南砺市福野文化創造センター「ヘリオス」　問スキヤキ・ミーツ・ザ・ワールド実行委員会事務局
Tel. 0763-77-3817

●山梨県富士河口湖町

8月11日～20日

富士山河口湖音楽祭2022

河口湖ステラシアターを中心に毎年開催している音楽祭。国内を代表する打楽器・マリンバ奏者の池上英樹、塚越慎子による打楽器マスタークラスに加え、今年で20周年を迎える中学

生特別バンドは、世界的なサックス奏者の上野耕平によるバンドクリニックや、ぱんだウインドオーケストラのメンバーとの共演など、盛りだくさんの音楽体験ができる。
㊂河口湖ステラシアター、河口湖円形ホールほか　㊐富士山河口湖音楽祭実行委員会
Tel. 0555-72-5588

●長野県木曽町
8月25日～28日
第48回木曽音楽祭
「自然と音楽の調和」をメインテーマとした今年で48回を数える音楽祭。長年地元のボランティアによって支えられ、根強いファンに愛されている。中学校の体育館で開催される初日の前夜祭コンサートでは、演奏家も聴衆も気軽に楽しめるよう普段着で演奏するほか、音楽祭ディレクターのクラリネット奏者・山本正治を中心に、管弦の名手たちによる室内楽コンサートを開催。
㊂木曽町中学校体育館、木曽文化公園文化ホール
㊐木曽音楽祭実行委員会
Tel. 0264-21-1222

●静岡市　8月7日
グランシップサマーフェスティバル　グランシップ音楽の広場2022
「クラシックをもっと身近に感じてほしい。」という思いから始まった夏恒例のフェスティバル。音楽の広場のために野平一郎が書き下ろした『祝祭の打～煌け五大陸～』がグランシップ音楽の広場オーケストラ（広上淳一指揮）と林英哲との共演で世界初演される。また、県内で活動するジュニアオーケストラとダンスチームが登場。子どもたちがプロの音楽家たちと共演する。
㊂静岡県コンベンションアーツセンター グランシップ
㊐グランシップチケットセンター
Tel. 054-289-9000

グランシップ音楽の広場オーケストラ

●長崎県佐世保市
8月20日、21日
アルカス九十九島音楽祭2022
2004年から続く市民参加型音楽祭。今年は長崎県在住の市民演奏家46団体（約600人）が参加し、九十九島の「海」「島」「風」「夏」にちなんだ曲を演奏。関連企画として、国の有形文化財である凱旋記念ホールで、ピアノの演奏体験（7月16日）や佐世保市博物館島瀬美術センターで九十九島の風景展（9月3日～19日）を開催。
㊂アルカスSASEBO
㊐佐世保地域文化事業財団
Tel. 0956-42-1111

●大分県大分市　7月30日、31日
iichikoグランシアタ・ジュニアオーケストラ フェスティバル2022
iichikoグランシアタ・ジュニアオーケストラの団員たちと一緒にオーケストラを体験し、演奏会にも参加できるワークショップ形式のフェスティバル。30日の「初心者楽器体験」「経験者特別レッスン」を受講した参加者が、31日の「ジョイントコンサート」でジュニアオーケストラと一緒に『カノン』や『天国と地獄』などを演奏する。
㊂㊐iichiko総合文化センター
Tel. 097-533-4004

●鹿児島県霧島市、鹿児島市
7月21日～8月7日
第43回霧島国際音楽祭
1980年から続く歴史ある国際音楽祭。今年は、3年ぶりに樫本大進、エリソ・ヴィルサラーゼ、フランク＝ミヒャエル・エルベンなど国外アーティストも参加し、約30のコンサートを開催。会場は霧島国際音楽ホールを中心に、霧島神宮、鹿児島空港など県内各地にも及ぶ。名演奏家によるレッスンは、国内外から約100人が受講。受講生は、世界で飛躍を遂げ、今では教える側・演奏家として音楽祭を支えている。
㊂霧島国際音楽ホール、宝山ホールほか　㊐みやまコンセール
Tel. 0995-78-8000

演劇・ダンス

●東京都調布市　7月22日～30日
せんがわワークショップフェスティバル2022
劇場という非日常空間で、自己を解放し自分を表現するきっかけづくりの場として、乳幼児から高齢者、障害者をはじめ、「普段はあまり劇場に足を運ばないが、潜在的に文化芸術の力を必要としている人」を対象にした多様なワークショップを開催。講座「老いと演劇～認知症の人と“いまここ”を共に楽しむ」では講師に菅原直樹を迎え、演劇的手法で認知症の人とのコミュニケーションを考える。他にも、乳幼児向けの演劇を親子で楽しむ、あるいはリーディング演劇を体験するプログラムもあり、舞台芸術を楽しむ市民の裾野拡大に繋げる。
㊂㊐調布市せんがわ劇場
Tel. 03-3300-0611

●長野県飯田市ほか
8月4日～7日
いいだ人形劇フェスタ2022
日本最大級の人形劇フェスティバルとして、伝統人形芝居から現代人形劇まで多彩な作品が地域のあちこちで上演される。コロナによる中止や小規模開催を経て、今年は「みんなの笑顔 まっとるに」をテーマに全国から約300劇団が集結。また、一昨年亡くなった飯田市ゆかりの伝統糸操り人形遣いである竹田扇之助の追悼企画として、竹田人形座の技法を受け継ぐ糸操り人形劇を上演。
㊂飯田市および近隣町村の約100会場　㊐いいだ人形劇フェスタ実行委員会
Tel. 0265-23-3552

人形劇団えりっこ（札幌市）『一さつのおくりもの～くまの子クマタの宝もの～』

●滋賀県米原市
7月30日～8月7日
芝居小屋「長栄座」夏のフェスティバル2022
芝居小屋「長栄座」復活10周年を機に昨年から始まった、世代を超えて気軽に古典芸能を楽しめる夏のフェスティバル。3年で完成する壮大な特設舞台公演「長栄座伝承会 むすひ」の2年目公演（7月30日、31日）のほか、「近江のあたらしい伝統産業展」「親子で楽しむ日本の伝統芸能」など多彩なラインナップが用意されている。
㊂㊐滋賀県立文化産業交流会館　Tel. 0749-52-5111

滋賀県立文化産業交流会館イベントホールに特設された芝居小屋「長栄座」

topics

●徳島の夏を彩る人形浄瑠璃と異ジャンルの華麗なコラボレーション
「Re.あわ文化（第76回夏期阿波人形浄瑠璃大会）〜精妙な人形、唸る声、躍動する身体、至高の音〜」

徳島の夏の風物詩として76年続く夏期阿波人形浄瑠璃大会。昨年より「Re.あわ文化」をテーマに、徳島の地に400年以上受け継がれてきた「あわ文化」の継承と発展を目指した新時代の浄瑠璃フェスティバルとしてアップデートしています。

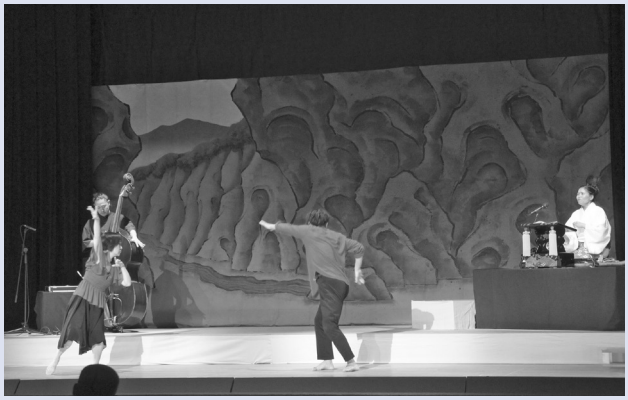
昨年は、伝統的な古典作品の上演に加え、コンテンポラリーダンス×義太夫×チェロがコラボした「コンテンポ太夫」や、浄瑠璃をモチーフとしたチェロとギターのリサイタルなど、伝統と新たな挑戦のコラボレーションが好評を博しました。

今年も、これまでの人形浄瑠璃大会の見どころである、徳島県内の13の人形座と太夫部屋5部屋が一堂に会して披露される圧巻の古典作品とともに、特別公演として3つのプログラムを展開。「義太夫節メドレー」では、『曾根崎心中』『絵本太功記』『生写朝顔日記』『傾城阿波の鳴門』といった人形浄瑠璃の名作の聴きどころを徳島の名人による義太夫節で一度に楽しめます。

また、人形による表現との対比として、世界的に活躍するダンサー・髙瀬譜希子、和太鼓奏者・佐藤健作が七福神をテーマに創作するスペシャルコラボ作品や、浄瑠璃で演奏される三味線との音色の違いが楽しめる、津軽三味線×ギターのプレミアムライブなど、人形浄瑠璃の魅力を角度や切り口を変えて紹介します。

古き良き伝統を守りながら、あわ文化を改めて考え、次世代の担い手に継承する、ここでしか見られない夏の祭典です。

●徳島県徳島市　7月23日、24日
㊗㊡あわぎんホール（徳島県郷土文化会館）
Tel. 088-622-8121
https://kyoubun.or.jp/


昨年の様子（コンテンポラリーダンス×義太夫×コントラバス『コンテンポ太夫』）

●沖縄県那覇市　7月23日〜31日
りっかりっか＊フェスタ2022
「劇場は命薬（ヌチグスイ）」をテーマに毎年夏に沖縄で開催される国際舞台芸術フェスティバル。20回目を迎える今年は、3年ぶりに海外作品の上演を予定するほか、重度の障がいのある子どもたちが鑑賞できるインクルーシブ作品など、0歳から大人まで楽しめる選りすぐりの作品が集まる。また、国内外から募るボランティアがフェスティバル会場を盛り上げる。
㊗那覇市内各所
㊡りっかりっか＊フェスタ事務局
Tel. 098-943-1357

美術・映像

●北海道東川町
7月30日〜8月30日
東川町国際写真フェスティバル
写真文化による町づくりを展開する東川町で毎夏開催している「写す、残す、伝える」心を世界の人々と共有するフェスティバル。「写真の町東川賞」授賞式や全国の高校生が集う「写真甲子園2022」のほか、「高校生国際交流写真フェスティバル」は今年は「ユースフェスフォトコンテスト」として実施。世界中の高校生を対象として、オンラインで開催される。
㊗東川町内各所
㊡東川町写真の町実行委員会
Tel. 0166-82-2111

●新潟県　4月29日〜11月13日
越後妻有 大地の芸術祭 2022
2000年に過疎高齢化の進む越後妻有地域を舞台にスタートした国際芸術祭。昨年の延期を経て、今回で8回目を迎える。38の国と地域263組の作家により、これまでに制作された常設作品210点に加え、新作123点が公開されるほか、日帰りバスツアーや作家や地域に特化したスペシャルツアーなど、気軽に参加できる多彩なツアーも実施。
㊗越後妻有地域（新潟県十日町市、津南町）　㊡大地の芸術祭実行委員会事務局
Tel. 025-757-2637

●愛知県名古屋市、一宮市、常滑市　7月30日〜10月10日
国際芸術祭「あいち2022」
「STILL ALIVE 今、を生き抜くアートのちから」をテーマに、多彩な分野で最先端の芸術を発信する国際芸術祭。今回は国内外100組の現代美術作家・グループによる展示や、パフォーミングアーツ、ラーニングプログラムが愛知県芸術文化センターや県内各市のまちなかで展開されるほか、オンラインでの映像配信・プログラムなども実施される。
㊗愛知芸術文化センター、一宮市、常滑市、有松地区（名古屋市）
㊡国際芸術祭「あいち」組織委員会　Tel. 052-971-3111

●香川県直島町ほか
8月5日〜9月4日（夏会期）
瀬戸内国際芸術祭2022
瀬戸内海の島々を舞台に214作品・19イベントが出展される。王文志（台湾）は、2010年から同芸術祭に参加し、美しい棚田を眺めることができる場所で、毎回竹を使った作品を制作している。今回は小豆島の竹4,000本で直径15mの球体の作品《ゼロ》を制作。来場者は中に入って、島の自然を感じることができる。このほか、夏会期からは19作品が新たに公開される。
㊗直島、豊島、女木島、男木島、小豆島ほか　㊡瀬戸内国際芸術祭実行委員会
Tel. 087-813-0853

総合

●宮城県石巻市
8月20日〜10月2日
Reborn-Art Festival 2021-2022（後期）―利他と流動性

石巻市街と牡鹿半島で展開する分散型芸術祭。昨年夏に開催された前期フェスティバルに引き続き、音楽家の小林武史を実行委員長として、現代アートや音楽、食のイベントや展示が催される。キュレーターにはワタリウム美術館の和多利恵津子、和多利浩一を迎え、「利他と流動性」をテーマに、多様な表現を通じてアートの役目を問いかける。
㊗石巻市市街地、牡鹿半島
㊐Reborn-Art Festival 実行委員会　Tel. 0225-90-4726

●福島県福島市　8月5日、6日
福島わらじまつり
12mを超える大わらじを担いで練り歩く夏祭り。50回目(2019年)に、福島出身の音楽家・大友良英による総合プロデュースでリニューアル。大友が編曲し直した「わらじ音頭」は、市民による大編成の和太鼓で生演奏される。また、同時にリニューアルした「わらじおどり」は、老いも若きもその人のレベルに応じて楽しく踊れるものになっている。
㊗福島市信夫通り(国道13号)
㊐福島わらじまつり実行委員会
Tel. 024-572-7118

●福島県喜多方市　8月5日～8日
2022喜多方発21世紀シアター
「0歳の子どもが成人するまで続けたい」との思いで、多くの子どもたちへ芸術文化体験の機会を届けてきたアートフェステバル。2019年に節目の20周年を迎え、今年は次の20年に向け、コロナによる縮小開催を乗り越え参加団体募集型による開催を再開する。市民と共に演劇や音楽、大道芸、伝統芸能など多彩な公演が喜多方を盛り上げる。
㊗喜多方プラザ文化センターほか喜多方市内各所
㊐喜多方発21世紀シアター実行委員会　Tel. 0241-24-4611

ホール・美術館 夏休み子ども企画カレンダー

ジャンル別に、開催地、日程、事業名、事業内容の順に掲載しています。
㊗は会場、㊐は問い合わせ先です。
(↝は地域創造助成事業)

音楽・演劇・ダンス

●東京都世田谷区
7月26日～8月29日
せたがやこどもプロジェクト2022
多様なジャンルでより創造性あふれる舞台芸術を、次世代を担う子どもたちに向けて展開するプロジェクト。《ステージ編》は毎年恒例の読み聞かせや落語、パフォーマンスのほか、新芸術監督の白井晃による体験型企画「夏の劇場・りんかん学校」が新たに始まる。《ワークショップ編》は、小学生から高校生までコース別に参加できる。
㊗世田谷パブリックシアター
㊐せたがや文化財団
Tel. 03-5432-1526

●東京都江東区
7月14日～17日
ミュージック・ワークショップ・フェスタ〈夏〉
先進的な教育プログラムで知られるポルトガルの音楽施設「カーザ・ダ・ムジカ」と東京文化会館のワークショップ・リーダーの協働で、さまざまな対象年齢向けに4日間で10演目のワークショップが開催される。ジャンルを超えた音楽の楽しさを体験しながら、創造性や協調性を育むようつくられた各ワークショップは、子どもから大人まで見て聴いて体で感じる参加型プログラム。
㊗江東区豊洲文化センター
㊐東京文化会館
Tel. 03-3828-2111

●横浜市　8月10日～21日
KAATキッズ・プログラム2022『さいごの1つ前』 ↝
劇場の開館当初から続いている、大人も子どもも楽しめるプログラム。毎年オリジナル作品を制作しており、今年は松井周による演劇『さいごの1つ前』を白石加代子主演でお届けする。公演前に開催される地域の小学生を対象としたワークショップにおいて、作品の美術の一部を創作してもらうことで、作品の世界観に一層の奥行きをもたせる。
㊗㊐KAAT神奈川芸術劇場
Tel. 045-633-6500

●新潟県長岡市　7月31日
リリック子ども音楽館　東京フィルわくわくコンサート2022
リズムに乗って思わず身体が動いてしまうような、世代を問わず気軽に楽しめるクラシックコンサート。演奏を聴いて楽しむだけでなく、持参した手づくり楽器や手拍子でオーケストラと一緒に演奏もできるワークショップ的な要素も取り入れている。コンサートが始まる前には、リリック・ジュニア・アンサンブルによるオープニングステージ演奏も。
㊗長岡リリックホール
㊐長岡市芸術文化振興財団
Tel. 0258-29-7715

●新潟市　7月30日
オーケストラはキミのともだち
馴染みのあるクラシックや映画音楽のほか、各楽器の音色や特徴を紹介しながら繋いでいくディズニーメドレーなど、親しみやすくオーケストラの迫力を感じられるコンサート。また演奏のみならず、ホールや公演の裏側を覗けるバックステージツアーや公演を支えるお仕事体験など、あらゆる視点でオーケストラの魅力を体感できる夏の恒例企画。
㊗りゅーとぴあ 新潟市民芸術文化会館 コンサートホール
㊐オーケストラはキミのともだち2022実行委員会
Tel. 025-224-7000

●長野県佐久市　8月5日～7日
〈キッズ・サーキット in 佐久〉2022
国内外の優れた舞台芸術団体を佐久市内の6施設に招聘し、児童・青少年のための舞台芸術を3日間で26公演開催する。いろいろな和楽器を聴いて物語を楽しむ「絵本『たかこ』と日本の楽器」や、道化師と音楽家による言葉のない舞台『らふぃゆれふぃゆ』など、子どもたちが能動的に表現体験のできる場を提供する。
㊗佐久市コスモホール、佐久平交流センターほか　㊐キッズ・サーキット in 佐久 実行委員会
Tel. 0267-82-3962

●愛知県一宮市　7月2日
七夕星空コンサート
第1回の今回は、星空とその先にある宇宙へ誘う「宙先(そらさき)案内人」高橋真理子の語りで、プラネタリウムを舞台スクリーンに上映。口笛・手回しオルゴール・ピアノによる星にちなんだ名曲の演奏に乗せて心が解き放たれる時間を演出する。当日は、移動プラネタリウムドーム「星たまご」や望遠鏡、オルガニートの体験も開催。3歳未満の幼児も参加可。
㊗㊐一宮市民会館
Tel. 0586-71-2021

●愛知県豊田市　8月7日
豊田市ジュニアオーケストラ第40回 定期演奏会 サマーコンサート
小学4年生から大学2年生までの45人が所属する豊田市ジュニアオーケストラによるサマーコ

topics

●神戸のプロオーケストラ・合唱団による夏休みコンサートがスタート
「こどもコンサート『海はひろいなおおきいな』」

こどもコンサート「海はひろいなおおきいな」は、0歳から参加ができ、客席で音を出すことや、公演途中で入退場することも可能な、神戸市室内管弦楽団・神戸市混声合唱団合同の演奏会で、指揮に石﨑真弥奈、打楽器に安永早絵子を迎えてお贈りします。今回が初開催となるイベントで、障がいのある子どもを含め、あらゆる子どもがリラックスして舞台を楽しむことができるコンサートとして定期開催を目指しています。

公演当日だけではなく、事前に支援学校や「こども本の森 神戸」（今春オープンした子どものための文化施設）へのアウトリーチ、ワークショップを開催し、プロの音楽家と子どもたちの交流の場としても機能します。ワークショップに参加した子どもたちと楽団員合同で演奏する『アイネクライネナハトムジーク』が当日プレパフォーマンスとして披露されます。また、郷土に伝わる「竹野相撲甚句」にルーツのある作品が本公演に合わせて合唱・オーケストラ版に編曲され初演奏されます。そのほかにも、曲間で「水の始まり」をテーマにした即興演奏をしたり、「海」をテーマにした曲を客席と即興で創作するなど、プログラムには載っていないイベントも計画されています。

当イベントを主催する神戸市民文化振興財団では、人材育成事業として神戸大学はじめ近隣の大学を中心に学生のインターンを受け入れ、アートマネジメントについてキャリア形成の講座と事業での実務経験を実施しており、その一環で、こどもコンサートの接客、支援学校でのアウトリーチの視察、手伝いなどをインターンの大学生が行います。

●神戸市　7月23日
㊗㊡神戸文化ホール
Tel. 078-351-3535　https://www.kobe-bunka.jp/hall/

ンサート。世界で活躍中の原田慶太楼を指揮に迎え、ショスタコーヴィチやストラヴィンスキーなどロシア音楽の難曲に挑戦する。ソリストは当楽団OBで東京交響楽団コンサートマスターの水谷晃が担う。
㊗㊡豊田市コンサートホール・能楽堂　Tel. 0565-35-8200

●京都市　8月13日～18日
プレイ！シアター in Summer 2022 オープンウィーク
「劇場で遊ぼう！」を合言葉に、毎年たくさんの子どもたちが集まる大好評企画。今年はパワーアップして「オープンウィーク」と銘打ち6日間開催。落語やドラァグクイーンの読み聞かせ、人形劇のほか、毎年恒例の「京都市交響楽団0歳からの夏休みコンサート」では絵本作家の谷口智則をゲストに迎え、絵本と音楽の組み合わせのほか、ライブペインティングも楽しむことができる。
㊗㊡ロームシアター京都
Tel. 075-771-6051

●広島市　7月16日、17日
♪おはなしオペレッタ♪『いばら姫』
23回目となる「おはなしおんがく」シリーズ。今回も、音楽家・松本憲治の構成・演出・作曲・編曲による、声楽と管弦楽を拡充した豪華な「おはなしオペレッタ」で上演。広島を中心に活躍する演奏家や俳優により、グリム童話の名作『いばら姫』を、親子で気軽に楽しめるように、お話しと音楽・映像のコラボレーションでお届けする。
㊗安芸区民文化センター、佐伯区民文化センター
㊡佐伯区民文化センター
Tel. 082-921-7550

『いばら姫』（2021年公演の様子）

美術

●神奈川県茅ヶ崎市
7月16日～9月4日
かくれんぼ―さがして。そして、
「かくれんぼ」をキーワードに、写真と絵画を用いて観光写真から人々の存在を消した城田圭介や、音楽家zmiによる作品を展示。美術館に「来られない人／来ない人」をきっかけに建築家・齋藤名穂によるプロジェクトも始まるほか、子ども向けテキストの配布物や、版画技法についてわかるアニメーション動画の上映など、美術から拡がる学びにも目を向ける。
㊗㊡茅ヶ崎市美術館
Tel. 0467-88-1177

●高知県高知市
7月26日～8月21日
高知サマープロジェクト2022 しりあがり寿さんが高知県美にやってくる！
漫画家・しりあがり寿の土佐和紙に刷ることで実現した、葛飾北斎のパロディ作品『冨嶽三十六景孔球版』を展示する。同時に、しりあがり寿を講師に迎え、幕末土佐の絵師である絵金の名作《土佐年中風俗絵巻》を題材に、小学生～大学生の参加者が描いたキャラクターを登場させたり、参加者の声を吹き込んだりすることで、一緒にアニメーションを制作する。
㊗㊡高知県立美術館
Tel. 088-866-8000

総合

●埼玉県富士見市
7月9日、10日
サーカス・バザール
市内の農作物や特産品を扱うバザールの中で、サーカスや大道芸の芸人たちの多様なパフォーマンスを楽しむことができる「ひと・アート・コミュニティ」の魅力が詰まった2日間。館内のいたる所でパフォーマンスを楽しむことができ、ジャグリング体験と大きなガラスに自由に絵を描く2つのワークショップは子どもたちに人気の企画となっている。
㊗富士見市民文化会館キラリ☆ふじみ　㊡（公財）キラリ財団
Tel. 049-268-7788

●高知県土佐市　7月23日～8月27日の土曜・日曜日
つなーでSUMMER WORKSHOP
夏休み期間中、土佐市内外で活動する方を講師に迎え、小中学生を対象とした「ものづくり」「体験・体感」ワークショップを開催。木工や陶芸、楽器づくり教室などのほか、ダンス教室では最終日にホールの舞台で発表を行い、舞台演出を学んだ参加者が本番ならではの照明・音響操作などを通じて豊かな感性を養う。
㊗㊡土佐市複合文化施設「つなーで」　Tel. 088-852-2111

地域通信

●地域通信欄掲載情報について

新型コロナウイルス感染症の影響により、イベントが中止となる場合や、開催内容・日程等が一部変更となる場合がございます。最新の情報は主催者の発表情報をご確認ください。

●データの見方

情報は地域ブロック別に、開催地の北から順に掲載してあります。●で表示してあるのは開催地です。マークが付いている事業は地域創造の助成事業です。ラインの下は、事業運営主体、住所、電話番号、担当者名の順に記載してあります。色帯部分が事業名で、以下、内容を紹介しています。

●地域ブロック

[北海道・東北]北海道、青森、岩手、宮城、秋田、山形、福島
[関東]茨城、栃木、群馬、埼玉、千葉、東京、神奈川
[北陸・中部]新潟、富山、石川、福井、山梨、長野、岐阜、静岡、愛知
[近畿]三重、滋賀、京都、大阪、兵庫、奈良、和歌山
[中国・四国]鳥取、島根、岡山、広島、山口、徳島、香川、愛媛、高知
[九州・沖縄]福岡、佐賀、長崎、熊本、大分、宮崎、鹿児島、沖縄

●情報提供先

ファックス、電話、e-mailでお願いします。
Fax. 03-5573-4060　Tel. 03-5573-4066
letter@jafra.or.jp
地域創造情報担当　梅村・矢嶋

●2022年9月号情報締切

7月25日(月)

●2022年9月号掲載対象情報

2022年9月～11月に開催もしくは募集されるもの

北海道・東北

●札幌市

サッポロ・シティ・ジャズ実行委員会
〒005-0864　札幌市南区芸術の森2-75
Tel. 011-592-4125　野村早紀
https://sapporocityjazz.jp/

サッポロ・シティ・ジャズ2022

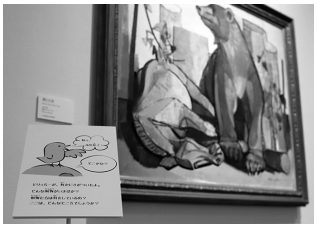
2007年に始まったジャズフェスティバル。7月は全国から集まったジャズバンド約200組が札幌の街をステージに繰り広げる「パークジャズライブ」、8月はプロやアマ、世代を超えたジャズセッションが繰り広げられるメインイベント「ノースジャムセッション」や、ユース世代を中心にした交流ワークショップ「ユースジャムセッション」などが行われる。12月には札幌市民文化劇場hitaruで音響や照明を駆使したスケール感のある豪華な特設会場で「THEATER JAZZ LIVE」を開催。
[日程]7月16日～12月7日
[会場]札幌芸術の森野外ステージほか

●北海道倶知安町

小川原脩記念美術館
〒044-0006　倶知安町北6条東7-1
Tel. 0136-21-4141　沼田絵美
https://www.town.kutchan.hokkaido.jp/culture-sports/ogawara-museum/

おしゃべり美術館 対話鑑賞のススメ

作品を鑑賞しながらおしゃべりを楽しむ展覧会。倶知安町出身の画家・小川原脩(1911～2002)が馬や犬など親しみやすい動物の姿、またチベットやインドの人々の営みをテーマに描いた作品16点を、「どんな動物がいますか」「人びとはどんなお話をしているかな」といったコメントを施したパネルと共に展示。美術館に出掛けることを身近な人との会話のきっかけにしてもらう。
[日程]4月23日～7月10日
[会場]小川原脩記念美術館


会場の様子

●青森県弘前市

弘前れんが倉庫美術館
〒036-8188　弘前市吉野町2-1
Tel. 0172-32-8950　石川達紘
https://www.hirosaki-moca.jp

2022年度春夏プログラム 池田亮司展

国際的に活躍するアーティスト・池田亮司の、国内美術館においては13年ぶりとなる個展。大正時代に建設された煉瓦壁の酒造工場を改修してつくられ、当時の趣を残している美術館の建築の特性を最大限に生かし、光や音、映像によるインスタレーション作品を展示。作家や作品の魅力により近づくために、これまで制作した音楽作品の試聴や活動記録の閲覧ができるアーカイブ&リスニングスペースも設置。
[日程]4月16日～8月28日
[会場]弘前れんが倉庫美術館

●岩手県宮古市

宮古市民文化会館
〒027-0023　宮古市磯鶏沖2-22
Tel. 0193-63-2511　岩間美紀
https://iwate-arts-miyako.jp

SUNRISE JAZZ!! BLACK BOTTOM BRASS BAND スペシャルライブ for MIYAKO

宮古市を訪れるアーティストと地域資源や魅力を融合した作品をつくり、発信するプロジェクト「SUNRISE project」。今回は国内外で活躍する音楽家と市民団体のコラボ企画として、日本を代表するニューオリンズスタイルブラスバンド・BLACK BOTTOM BRASS BANDが、宮古吹奏楽団やフォローウインズ、一般公募の市民と共演する。
[日程]7月9日
[会場]宮古市民文化会館

関東

●茨城県笠間市

茨城県陶芸美術館
〒309-1611　笠間市笠間2345
Tel. 0296-70-0011　飯田将吾
https://www.tougei.museum.ibk.ed.jp/

井上雅之　描くように造る

井上雅之が長年教鞭を執ってきた多摩美術大学を今年度をもって退職し、作家として新たな一歩を踏み出す節目にあたり、初期作品から新作まで約70点を展示し、40年間の歩みをたどる回顧展。ろくろ成形後に割った破片を一部に用いた作品や、ボルトで陶のパーツを組み立てたダイナミックな作品が特徴。段ボール紙や接着剤などを使った「マケット」を作家と一緒につくるワークショップを開催し、作品制作の秘密に迫る。
[日程]6月11日～8月28日
[会場]茨城県陶芸美術館

●さいたま市

うらわ美術館
〒330-0062　さいたま市浦和区仲町2-5-1　浦和センチュリーシティー3F
Tel. 048-827-3215　松原知子
https://www.city.saitama.jp/urawa-art-museum/

うらわ美術館開館22周年 芸術家たちの住むところ

2020年に中止となった開館20周年記念展を、当初の企画規模で実現。各地の美術館や関係機関の所蔵作品と同館収蔵

品を交え、芸術家同士の繋がりやさまざまなエピソード、時代状況などをたどりながら、浦和地域に集った芸術家たちの作品やその背景をひも解く。芸術文化を繋いできた芸術家たちの足跡、彼らが活躍の場を広げていった様子を、100タイトルを超える作品、資料とともに前後期に分けて展覧する。
[日程]4月23日～8月28日
(前後期制)
[会場]うらわ美術館

高田誠《桐の咲ける風景》(1933年／うらわ美術館蔵)

●千葉市
千葉市美術館
〒260-0013　千葉市中央区中央3-10-8
Tel. 043-221-2311　畑井恵
https://www.ccma-net.jp/

とある美術館の夏休み

「美術館をときほぐす」「作品と出会い直す」「日常で表現する」をテーマに、現代美術家の新作とコレクション、アート作品とプロダクトといった取り合わせによって、美術館そのものをとらえ直す。中崎透やミヤケマイらが収蔵作品にインスパイアされた新作を発表するほか、小川信治と目[mé]の2組は、所蔵されている過去の自分の作品と新作でインスタレーションを構成する。
[日程]7月16日～9月4日
[会場]千葉市美術館

●千葉県習志野市
習志野文化ホール
〒275-0026　習志野市谷津1-16-1
Tel. 047-479-1212　深野有里
http://narabunh.jp/

習志野シンフォニエッタ千葉 第4回演奏会

2018年に習志野文化ホール開館40周年に合わせて、芸術監督を務めるクラリネット奏者・横川晴児の「お世話になった地域に音楽で恩返しをしよう」という呼びかけにより、習志野市・千葉にゆかりのある郷土愛にあふれたメンバーで結成された習志野シンフォニエッタ千葉。2年の延期を経てようやく開催される今回の演奏会は、作曲家・ピアニストの野平一郎を迎え、上質な音楽をお届けする。
[日程]7月29日
[会場]習志野文化ホール

●横浜市
神奈川県立音楽堂
〒220-0044　横浜市西区紅葉ケ丘9-2
Tel. 045-263-2567　日下郁
https://www.kanagawa-ongakudo.com/

シリーズ「新しい視点」 紅葉坂プロジェクトVol.1

公募による若い演奏家のアイデアを発掘・実現するためのプロジェクト。一柳慧、沼野雄司、鈴木優人の審査を経て、「音＋音」(滝千春、中野翔太)による響きと空間をキーワードとした企画など3件を採択。モニター観客の前での公開プレゼンテーションや質疑応答などを経て、ブラッシュアップした内容で本公演を迎える。演奏家から聴衆へ発信する音楽表現のあり方など、双方向の可能性を広げることを目指している。
[日程]7月2日
[会場]神奈川県立音楽堂

●川崎市
川崎市民プラザ
〒213-0014　川崎市高津区新作1-19-1
Tel. 044-888-3131　安本慧
https://www.kawasaki-shiminplaza.jp/

プラザ・おへやライブVol.1～エマーソン北村トーク&ライブ～

小さな部屋・ラフな環境・定員35人の少人数で、ゆったり楽しむ新ライブ。2022年1月にリニューアルしたセミナールームで、音楽を間近でじっくり楽しむ空間をつくる。第1回は日本の音楽シーンを支える鍵盤奏者、エマーソン北村が登場。レゲエやアフリカンポップなどの歴史を紐解くトークに加え、キーボード&リズムマシンによる柔らかな演奏が楽しめる。
[日程]7月31日
[会場]川崎市民プラザ

北陸・中部

●長野県茅野市
茅野市民館
〒391-0002　茅野市塚原1-1-1
Tel. 0266-82-8222　山内美侑
http://www.chinoshiminkan.jp

第2回蓼科高原音楽祭

別荘地・蓼科にゆかりのある音楽愛好家を中心とした実行委員会が、地域に音楽の魅力を届けようと企画する音楽祭。第2回の今回は、東條茂子(フルート)が千田悦子(ハープ)と共に、耳なじみのあるクラシックの数々や日本の名曲を、金子三勇士(ピアノ)が、地域で活動する諏訪交響楽団との共演プログラムと、自身の編曲による本公演だけの「第九」特別編を含むソロプログラムをお届けする。
[日程]7月16日～18日
[会場]茅野市民館

近畿

●三重県津市、愛知県長久手市、北九州市
三重県文化会館
〒514-0061　津市一身田上津部田1234
Tel. 059-233-1100　堤佳奈
https://www.center-mie.or.jp/deathlock-saisei/

北九州芸術劇場×三重県文化会館×長久手市文化の家 東京デスロック『再生』 劇団＋現地バージョンツアー

2006年に初演され、社会問題であった集団自殺をモチーフにしながら、30分の物語を3回繰り返すという特異な構造で話題となった多田淳之介(東京デスロック主宰)の作品を、地域の演劇文化を支える3つの劇場が連携して再演。劇団オリジナルバージョンと、オーディションで選ばれたそれぞれの地域の出演者との現地滞在制作バージョンを同時上演する大型プロジェクトに挑む。
[日程・会場]7月9日、10日:北九州芸術劇場／7月23日、24日:三重県文化会館／2023年2月25日、26日:長久手市文化の家

東京デスロック『再生』(2017)　©bozzo

●滋賀県大津市
滋賀県立芸術劇場びわ湖ホール
〒520-0806 大津市打出浜15-1
Tel. 077-523-7133　田上朋子
https://www.biwako-hall.or.jp/

オペラへの招待　ヴェルディ作曲　歌劇『ファルスタッフ』

オペラ鑑賞者の裾野を広げることを目的に、2007年3月にスタートした「オペラへの招待」。上演前には演出家による物語の解説もあり、オペラファンはもちろんのこと、オペラ鑑賞が初めての人も楽しめるプログラムとなっている。キャストはびわ湖ホール声楽アンサンブルと卒業生で

ある「ソロ登録メンバー」を配して、楽しいオペラの世界に誘う。
[日程]7月15日～18日
[会場]滋賀県立芸術劇場びわ湖ホール 中ホール

●大阪市
大阪中之島美術館
〒530-0005　北区中之島4-3-1
Tel. 06-6479-0550　清原・北廣
https://nakka-art.jp

開館記念展
みんなのまち　大阪の肖像

構想から約40年を経て今年2月にオープンした大阪中之島美術館の開館記念展。明治から戦前までの大阪の近代都市への歩み(第1期：「都市」への道標。)と、戦後の復興期から70年万博を経た大都市としての歩み(第2期：「祝祭」との共鳴。)の2期に分けて、大阪の移り変わりをたどっていく。美術とデザインを核とする同館の所蔵作品を中心に、絵画やポスター、家電、実物大工業化住宅など、幅広い作品・資料を展示する。
[日程]第1期：4月9日～7月3日、第2期：8月6日～10月2日
[会場]大阪中之島美術館

●大阪府岸和田市
岸和田市文化国際課
〒596-0004　岸和田市荒木町1-17-1(マドカホール内)
Tel. 072-443-3800　野村麻希
https://www.city.kishiwada.osaka.jp/soshiki/9/chiharu-shiota.html

岸和田市市制施行100周年記念事業
「塩田千春展 Home to Home」

岸和田市出身で世界的に活躍しているアーティスト・塩田千春の展覧会を、国の登録有形文化財である自泉会館の建物全体を使って開催する。ホールでは塩田の代表作である糸を使った大規模なインスタレーションを、展示室ではパネルや映像作品等の展示を行う。8月28日には辻筆(立体紙切師)によるワークショップも実施。
[日程]8月11日～9月25日
[会場]自泉会館

●兵庫県丹波篠山市
兵庫陶芸美術館
〒669-2135　丹波篠山市今田町上立杭4
Tel. 079-597-3961　仁尾一人
https://www.mcart.jp/

受贈記念 平井昭夫コレクション×三浦徹コレクション　やきものを愉しむ―二人のまなざし―

兵庫陶芸美術館が2019年から2021年にかけて神戸市在住の二人のコレクターから受贈した作品の中から、富本憲吉や濱田庄司などの人間国宝や、河井寛次郎、北大路魯山人など計313点を展示。両氏のやきものへの愛情や鋭い審美眼が反映されたコレクションを通して、改めてやきものを愉しみ、その魅力にふれてもらう。
[日程]6月11日～8月28日
[会場]兵庫県陶芸美術館

中国・四国

●岡山市
岡山県天神山文化プラザ
〒700-0814　岡山市北区天神町8-54
Tel. 086-226-5005　名合貴洋
https://tenplaza.info

天プラ・セレクションVol.98
藤飯千尋展「UNIVERSE」

2006年から岡山県ゆかりの美術作家を個展形式で紹介している企画展シリーズ。98回目の今回は岡山県井原市出身の藤飯千尋を紹介する。藤飯の作品は、薄い和紙を張ったパネルにアクリル絵の具を流し込み、アクリルや油彩で描き込むという画法で、和紙繊維を利用した色彩と造形の追求によって、独特の深みと光を感じさせる。
[日程]7月26日～31日
[会場]岡山県天神山文化プラザ第3展示室

九州・沖縄

●熊本市
熊本市現代美術館
〒860-0845　熊本市中央区上通町2-3
Tel. 096-278-7500　冨澤治子
https://www.camk.jp/

熊本市現代美術館開館20周年記念 不思議の森に棲む服 ひびのこづえ×KUMAMOTO 展

開館20周年を記念し、コスチューム・アーティストのひびのこづえの個展を開催。生き物、現象、人工物をアイデアとする作品の不思議な世界観を、最先端のARによる動画や映像、試着体験などを通じて紹介する。何重にも衣装が重ねられた状態から、1枚ずつ脱ぐことで別な生き物へ変身するダンス・パフォーマンス「ROOT：根」なども上演されるほか、作品の題材になった動物に着想を得た関連事業も多数開催する。
[日程]7月2日～9月19日
[会場]熊本市現代美術館

ROOTの衣装で踊るアオイヤマダ(2021年)　Photo: 上原勇

●大分県竹田市
竹田市文化振興財団
〒878-0024　竹田市玉来1-1
Tel. 0974-63-4837　伊達奈都紀
https://www.city.taketa.oita.jp/glanz/

瀧廉太郎顕彰コンサート
「廉太郎が愛した音符」

瀧廉太郎が少年期を過ごし、『荒城の月』のモチーフとされる岡城跡のある竹田市。今回は、2019年に市へ寄贈された東京音楽学校演奏会のプログラムや書簡、譜面などの資料を元に、若き日の演奏家としての姿に焦点を当て、当時瀧が演奏していた曲、将来演奏したかったと思われる曲を、竹田市を拠点に大分県初のプロオーケストラとして精力的に活動するTAKETA室内オーケストラ九州が再現する。
[日程]7月3日
[会場]グランツたけた廉太郎ホール

●鹿児島県霧島市
きりしま美術大賞展実行委員会
〒899-4394　霧島市国分中央3-45-1
Tel. 0995-64-0710　濱川夏希
https://www.city-kirishima.jp/hisyokouhou/kyoiku/gejutsu/bijutsuten/index.html

第18回きりしま美術大賞展

全国の高校生以上を対象にした絵画作品の公募展。自由部門のほか、霧島の特色を題材にした8号サイズのテーマ部門がある。審査員は馬越陽子(日本芸術院会員)と森一浩(第1回風の芸術展大賞)。入賞・入選作品は国分シビックセンターでの展示の後、一部を鹿児島県の有形文化財で完成100周年を迎える旧田中家別邸でも展示する。
[日程・会場]7月19日～29日：国分シビックセンター、7月31日～8月14日：旧田中家別邸

前回の展示の様子

財団からのお知らせ

●「地域創造フェスティバル2022」参加者募集

地域創造が取り組んでいるさまざまな事業を紹介するとともに、公共ホールや自治体の皆さんが事業を企画・実施する上で参考となる情報を提供することを目的として、7月26日・27日の2日間、東京芸術劇場（東京都豊島区）で開催します。全国の皆様のご参加をお待ちしております。

※事前申し込み制です。一部のプログラムは定員になり次第締め切りますので、お早めにお申し込みください。

募集締切：7月19日（火）必着

●「地域創造フェスティバル2022」
［日程］7月26日（火）、27日（水）
［会場］東京芸術劇場
（東京都豊島区西池袋1-8-1）
［申し込み方法］地域創造ホームページ「参加登録フォーム」からお申し込みください。
https://www.jafra.or.jp/project/festival/01.html
［問い合わせ］芸術環境部　三田・矢嶋
Tel. 03-5573-4068

地域創造フェスティバルのみどころ

◎おんかつ支援プレゼンテーション（公共ホール音楽活性化支援事業）

おんかつ支援の登録アーティスト54組が、音楽との新しい出合いを地域へ届けるため工夫を凝らした演奏とトークを、一組30分の持ち時間の中で披露します。

◎ダン活プレゼンテーション（公共ホール現代ダンス活性化事業）

令和5年度ダン活登録アーティスト7組による、ダンスパフォーマンスや、ワークショップのデモンストレーションを鑑賞いただけます。

◎シンポジウム「変化する地域と越境する文化の役割～地域と文化芸術をつなげるコーディネーター～」

令和3年度に実施した地域と文化芸術をつなげるコーディネーターへのインタビューを中心とした事例調査の成果報告を行います。地域と文化芸術のつなぎ役であるコーディネーターの取り組みや成果・課題を紹介することで、“これから”求められる人材のあり方について考察を行い、今後の文化行政、公立文化施設及び地域における活用や目指すべき将来像を探ります。

◎おんかつセミナー

おんかつを実施してきた、あるいはこれから実施を検討したいという方を対象に、「基礎編」「応用編」それぞれのテーマに分かれて、グループワークを行います。

「地域創造フェスティバル2022」プログラム

＊詳しいプログラム内容やタイムスケジュールは同封のチラシをご覧ください。
＊おんかつ支援プレゼンは同封のチラシ記載の出演日程が一部変更になりました。下表が最新情報です。
石上真由子（ヴァイオリン）：26日（火）出演
松尾俊介（クラシック・ギター）：27日（水）出演

7月26日（火）	7月27日（水）
●シンポジウム ［モデレーター］吉本光宏 ［パネリスト］小川智紀、野村政之、若林朋子、宮城潤	●おんかつセミナー ［ファシリテーター（おんかつコーディネーター）］ 小澤櫻作、丹羽徹、花田和加子、山本若子、赤木舞、仕田佳経
●ダン活プレゼンテーション ［アーティスト］ 長井江里奈、大島匡史朗、井田亜彩実、中村蓉、浅井信好、藤田善宏、康本雅子	●助成・事業要綱説明会 地域創造助成要綱、公立美術館活性化事業、リージョナルシアター事業、公共ホール邦楽活性化事業の説明を行います。
●おんかつ支援プレゼンテーション ［ピアノ］新居由佳梨、佐々木京子、實川風、田村緑、泊真美子　［弦楽器］石上真由子、坂口昌優（ヴァイオリン）／海野幹雄、奥田なな子、加藤文枝（チェロ）　［管楽器］荒川洋、吉岡次郎（フルート）／田村真寛（サクソフォン）／高見信行（トランペット）／喜名雅（テューバ）　［声楽］大森智子、竹多倫子、乗松恵美、廣田美穂（ソプラノ）／吉川健一（バリトン）　［打楽器］浜まゆみ（マリンバ）／野尻小矢佳（パーカッション＆ボイス）　［その他］福島青衣子（ハープ）／山本奈央（オカリナ）　［アンサンブル］デュオ・レゾネ（クラリネット＆ピアノ）／Quatuor B（サクソフォン四重奏）／Buzz Five（金管五重奏）	●おんかつ支援プレゼンテーション ［ピアノ］新崎誠実、岩崎洵奈、今野尚美、齊藤一也、酒井有彩、高橋ドレミ、中野翔太　［弦楽器］礒絵里子、高橋和歌、早稲田桜子（ヴァイオリン）　［管楽器］森岡有裕子（フルート）／大石将紀、田中拓也（サクソフォン）／加藤直明（トロンボーン）　［声楽］梅津碧（ソプラノ）／ヴィタリ・ユシュマノフ（バリトン）　［打楽器］大熊理津子、塚越慎子（マリンバ）／新野将之（パーカッション）　［その他］松尾俊介（クラシック・ギター）　［アンサンブル］デュエットゥかなえ＆ゆかり（ピアノデュオ）／泉真由x松田弦（フルート＆クラシック・ギター）／Dual KOTO×KOTO（箏デュオ）／ピアノトリオ・ミュゼ／アーバンサクソフォンカルテット、Quartet SPIRITUS（サクソフォン四重奏）／BLACK BOTTOM BRASS BAND（ブラスバンド）
●助成・事業個別相談（助成、公立美術館活性化、リージョナルシアター、公共ホール邦楽活性化等） 事業担当者が個別の相談を承ります（1件15分）。申請について具体的なお問い合わせや、事業の様子等を聞くこともできます。申請・実施をご検討中の方はぜひご参加ください。	
●情報交換会 おんかつ支援登録アーティストや全国の公立文化施設の方々との交流ができます。情報交換や、ネットワークづくりにぜひご参加ください。 ※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、ケータリングは行いません。	

＊新型コロナウイルス感染症の状況等により、プログラムの中止または内容を変更する場合がございます。

●令和5年度「リージョナルシアター事業」実施団体募集

演出家や俳優(以下、派遣アーティスト)を公共ホールに最大3回派遣し、公共ホールとともに演劇の手法を使ったワークショップを企画・実施する「リージョナルシアター事業」の実施団体を募集します。

この事業では、主に学校等の施設を訪れて子ども等を対象にワークショップを行うアウトリーチや、ホール等で多様な参加者に応じたワークショップを実施します。地域のニーズやホールの目指す方向性に合わせてプログラムを自由に企画することができ、地域の課題に取り組むことが可能になります。また、公共ホール等の企画・制作能力の向上、ホールの活性化も期待できます。

これまでの事業では、小中学校の授業内でのアウトリーチや、公募した市民とともに街歩きやホール探検をして地域・ホールの魅力を再発見するワークショップ、行政職員や教員の研修として行うワークショップなど、多岐にわたるプログラムを実施しています。

各地域での事業実施前には実施団体と派遣アーティストによる研修会を行います。過去の事例紹介やワークショップ体験、事業実施に向けた打ち合わせを行いながら、各地域の課題や展望を共有していきます。

演劇の手法を使った新しい取り組みへの挑戦や、派遣アーティストの新しい視点を活用したいというホールの皆様のご応募をお待ちしています。詳細は当財団ウェブサイトをご覧ください。

https://www.jafra.or.jp/project/theater/02.html

募集締切:8月15日(月)必着

YouTube地域創造公式チャンネルの動画「【地域創造フェスティバル2021】「地域創造事業 ワークショップ体験&レクチャー」ダイジェスト映像」の中で、リージョナルシアター事業の一端を紹介しております。ぜひご参照ください。

●令和5年度リージョナルシアター事業
◎派遣アーティスト
•多田淳之介
(演出家/東京デスロック主宰)
•田上豊
(劇作家・演出家/田上パル主宰)
•有門正太郎
(演出家・俳優/有門正太郎プレゼンツ主宰)
•福田修志
(劇作家・演出家/F's Company代表)
•ごまのはえ
(劇作家・演出家・俳優/ニットキャップシアター代表)
◎問い合わせ
芸術環境部　栗林・藁科
Tel. 03-5573-4124
regional@jafra.or.jp
※実施要綱・申込書は当財団ホームページ内からダウンロードできます。
https://www.jafra.or.jp/project/theater/02.html#boshu

令和4年度「地域創造大賞(総務大臣賞)」募集開始

地域における創造的で文化的な表現活動のための環境づくりに特に功績のあった公立文化施設を顕彰し、全国に広く周知することにより、公立文化施設の活動のさらなる活性化を図り、美しく心豊かなふるさとづくりの推進に寄与することを目的としています。ご応募をお待ちしています。

募集締切:2022年7月20日(水)

●表彰対象

- 開館から概ね5年を経過している(廃校施設等の転用施設を含む)
- 地域における創造的で文化的な表現活動のための環境づくりに特に功績を挙げている
- 条例により公の施設として設置および管理されている
- 以下の①～⑤を主な活動分野としている文化施設
  ①音楽分野、②演劇・ダンス分野、③伝統芸能分野、④美術分野、⑤その他(文化・芸術の新機軸となり得る創意工夫をこらした文学、歴史などで①～④の分野と連携しながら継続的に事業を展開していると認められるもの)

●審査の主なポイント

- 地方公共団体等が、文化・芸術による地域振興やふるさとづくりという地域を豊かにするための行政の目的に沿った芸術文化振興ビジョンや公立文化施設の理念、使命を持ち、それを達成するための施設運営がなされているかどうか
- 先進性、テーマ性を有する自主企画作品の制作、公演や自主企画展覧会の開催等創造的な活動に取り組むとともに、内外の優れた作品の鑑賞機会の提供に意欲的に取り組んでいるか
- 地域住民の文化・芸術活動の育成支援、教育普及活動、住民参加・参画など地域住民との協働(コラボレーション)に意欲的に取り組んでいるか　など

●地域創造大賞(総務大臣賞)
◎実施要領・応募方法
「実施要領」「応募書」は当財団のホームページからダウンロードできます。
https://www.jafra.or.jp/project/award/01.html
都道府県・政令指定都市は当財団に直接ご応募ください。市区町村は、当財団のホームページに掲載した都道府県の担当課を経由して提出してください。
◎問い合わせ
総務部　高野
Tel. 03-5573-4184
taishou@jafra.or.jp

財団からのお知らせ

●令和5年度「公共ホール音楽活性化事業」(導入プログラム)実施団体募集

公共ホール音楽活性化事業(おんかつ)は、オーディションで選ばれたクラシック音楽のアーティストと専門家のコーディネーターを公共ホールに派遣し、ホールとアーティストが共同で企画した学校や福祉施設等での地域交流プログラムやコンサートを実施することにより、公共ホールの利活用の促進やホールスタッフの企画・制作能力の向上、創造性豊かな地域づくりを支援するものです。

オーディションで選ばれた「登録アーティスト」の情報については、8月下旬に当財団ホームページに掲載予定です。

募集締切:2022年9月22日(木)必着

◎対象団体
①市町村(特別区を含み、政令指定都市を除く)
②市町村の公共ホール指定管理者　など

◎対象アーティスト
2023・2024年度「公共ホール音楽活性化事業」(導入プログラム)登録アーティスト

◎事業内容
原則、3日間の連続した日程で、次の事業を実施する。
[地域交流プログラム]学校や福祉施設等でのミニコンサートやワークショップなど、地域との交流を図る事業　4回(1日につき2回)
[公演]公共ホールで開催する有料のクラシック音楽コンサート　1回

◎経費負担・支援内容
演奏家派遣経費(出演料、現地移動費を除く交通費、宿泊費等)／地域交流プログラムに係る経費(主にピアノ調律費:10万円限度)／コーディネーターの派遣／全体研修会(事業実施に必要なノウハウ等の研修)および個別研修(現地下見)の実施

※詳細は実施要綱等をご確認ください。

令和3年度　福岡県中間市での地域交流プログラムの様子

●令和5年度「公共ホール音楽活性化支援事業」(支援プログラム)実施団体募集

公共ホール音楽活性化事業(おんかつ)実施団体を対象とした、最大5ヵ年まで実施可能なフォローアッププログラムです。おんかつで得たノウハウを活用し、引き続き同様の事業を行う市町村等に対して財政的に支援します。登録アーティストのプロフィール等の資料は、対象団体に送付させていただきます。

募集締切:2022年9月22日(木)必着

◎対象団体
おんかつ(おんかつ支援、発展継続(支援)、文化庁連携事業を含む)を過去に実施した市町村等。
ただし、おんかつまたは地域創造の他の事業を原則として10年以内に実施していること。

◎対象アーティスト
公共ホール音楽活性化支援事業登録アーティスト

◎支援内容
以下の①および②に係る経費の支援1年目:2/3、2年目以降:1/2を地域創造が助成します。
(※対象経費上限は100万円。助成割合は過去のおんかつ等事業実施状況を勘案し決定)
①演奏家に係る経費
出演料およびマネジメント料(上限あり)、交通費(現地移動費を除く)、宿泊費、日当、楽器運搬費(現地楽器運搬費を除く)、損害保険料
②地域交流プログラムおよび公演に係る経費

※詳細は実施要綱等をご確認ください。

令和3年度　北海道大空町でのアクティビティの様子

●「公共ホール音楽活性化事業」(導入プログラム)に関する問い合わせ
芸術環境部　永田
Tel. 03-5573-4064
onkatsu@jafra.or.jp

●「公共ホール音楽活性化支援事業」(支援プログラム)に関する問い合わせ
芸術環境部　田中
Tel. 03-5573-4185
onkatsu@jafra.or.jp

※おんかつ(導入プログラム／支援プログラム)の実施要綱・申込書は当財団ホームページ内からダウンロードできます。
[導入]
https://www.jafra.or.jp/project/music/01.html
[支援]
https://www.jafra.or.jp/project/music/03.html

●令和5年度「公共ホール邦楽活性化事業」実施団体募集

公共ホール邦楽活性化事業は、オーディションで選ばれた邦楽の演奏家とコーディネーターを公共ホールに派遣し、ホールと演奏家が共同で企画した地域交流プログラムやホールプログラムを実施することにより、公共ホールの利活用の促進やホールスタッフの企画・制作能力向上、創造性豊かな地域づくりを支援するとともに、日本の伝統音楽の継承発展に寄与することを目的としています。邦楽はハードルが高いと感じているホールの皆様も、ぜひ当事業をご活用ください。

募集締切：2022年9月22日(木)必着

◎対象団体
①市町村(特別区および政令指定都市を含む)
②市町村の公共ホール指定管理者　など

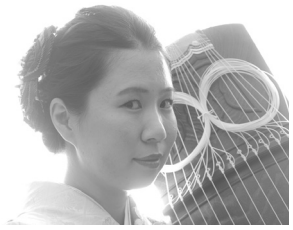
◎事業内容
原則、3日間の連続した日程で、次の事業を実施する。
[地域交流プログラム]学校や福祉施設等でのミニコンサートやワークショップなど、地域との交流を図る事業　4回(1日につき2回)
[ホールプログラム]公共ホールで開催する有料の邦楽コンサートまたは公募型ワークショップ　1回

◎経費負担・支援内容
演奏家派遣経費／地域交流プログラムに係る経費(楽器運搬費など)／コーディネーターの派遣／全体研修会および個別研修(現地下見)の実施

※詳細は実施要綱等をご確認ください。

令和4・5年度公共ホール邦楽活性化事業 登録演奏家

川田 健太(かわだ けんた)
[箏、三絃]


藤重 奈那子(ふじしげ ななこ)
[箏、地歌三絃、十七絃]

棚原 健太(たなはら けんた)
[歌三線]

●令和4年度「公共ホール邦楽活性化事業」実施団体一覧(全8団体)
秋田県大館市、茨城県鉾田市、埼玉県上里町、東京都練馬区、神奈川県座間市、新潟県魚沼市、富山県黒部市、和歌山県上富田町

●令和4年度「公共ホール邦楽活性化事業」全体研修会プログラム
◎5月12日(木)
•事業概要説明(地域創造)
•アウトリーチ概論(児玉真)
•プレゼンテーションの聴き方(邦楽コーディネーター)
•演奏家プレゼン(川田健太、藤重奈那子、棚原健太)
•交流会
◎5月13日(金)
•公共ホールにとっての邦楽事業とは(伊藤由貴子)
•邦楽のいろは(谷垣内和子)
•市町村事例と邦楽公演の制作について(香川志帆・當銘弓佳(つくば市)、米澤浩)
•実施団体からのプレゼンテーション
•グループミーティング～企画案をまとめてみる～

●「公共ホール邦楽活性化事業」に関する問い合わせ
芸術環境部　森永
Tel. 03-5573-4069
hougaku@jafra.or.jp

●令和4年度「公共ホール邦楽活性化事業」全体研修会報告

初めてとなる登録演奏家のオーディションやガイダンスの模様についてはレターで紹介してきましたが、5月12日、13日には今年度事業を実施する8団体を対象にした全体研修会も実施されました。

コーディネーターによるレクチャーに加え、12日には池袋のとしま区民センターを会場に初代登録演奏家となった川田健太さん(箏・山田流、三絃)、藤重奈那子さん(箏・生田流、地歌三絃、十七絃)、棚原健太さん(歌三線)が助演者と共に各25分のプレゼンテーションを行いました。

最年少の川田さん(2001年生まれ)は洗足学園音楽大学現代邦楽コースに在学中の学生演奏家。オーディションのときの黒紋付きと異なり、若々しいパステルカラーの着物で谷富愛美さん(生田流)、風間禅寿さん(尺八)と登場。木槌で布を打つ「砧(きぬた)」のリズムを曲のモチーフにした「五段砧」を流派の異なる二人で合奏。また、西洋音階を使ったラテン音楽のような『エルサルバドル』で若さをアピールしていました。

藤重さん(1996年生まれ)も東京藝術大学大学院に所属する実力派の学士演奏家。大学からの同窓生だという助演の町田夢子さん(箏)や吉越瑛山さん(尺八)という息の合った仲間とチームを組み、座奏、立奏とスタイルを変えながら古典から現代曲まで多彩な曲を巧みに実演。3人の邦楽との出会い、曲の聞き所などバランスのとれたプレゼンテーションを展開しました。

沖縄伝統組踊「子の会(しーのかい)」に所属し、歌三線を継承する棚原さん(1993年生まれ)はこれまでも小中高校生にアウトリーチを行ってきた実践者です。プレゼンテーションでは、沖縄ポップスのルーツであり、歌が主役という琉球古典音楽について「うちなーぐち」の軽妙なトークで紹介。助演の入嵩西諭さん(琉球笛)、町田倫士さん(琉球箏)と共に古典から即興の歌詞で歌うラップのような琉歌まで披露しました。

全体研修会の様子

財団からのお知らせ

●令和5・6年度「公立美術館活性化事業」募集

公立美術館活性化事業における4事業5種類のプログラムについて、令和5・6年度に実施する事業の参加館を募集します。

募集締切：2022年11月30日(水)

[I]令和5年度準備・6年度開催「市町村立美術館活性化事業」

この事業は、地域創造が提示する公立美術館の所蔵品を活用した共同巡回展を、市区町村の設置する美術館が共同で実施するものです。参加館で実行委員会を結成し、準備年度である令和5年度は学芸担当者会議等を行い、アドバイザーの助言のもと企画の具体化や調査研究、制作実務を参加館で分担して進めます。そして令和6年度に巡回展を開催します。

地域創造は、準備年度・開催年度の2か年にわたる助成に加え、アドバイザーの派遣や制作実務に対する助言等により、事業の実施をサポートします。

今年度募集するのは、令和6年度に開催予定の共同巡回展**「熊本県立美術館所蔵 浜田知明展」**(仮称)への参加館です。

熊本県立美術館は、設立当初から郷土を代表する芸術家の一人として浜田知明を位置付け、彼についての調査・研究、そして作品の収集に努めてきました。同館が所蔵する浜田知明作品および資料は、現在のところ計753件。銅版画と彫刻に関してはほぼすべての作品を網羅しており、また若き日に制作したデッサンや油彩画も所蔵しているため、その画業と生涯は同館のコレクションのみで辿ることが可能です。とりわけ、彼の画業を代表する銅版画作品については、最大で3セットの同一作品を所蔵。これは同館の銅版画コレクションが、以下3種のコレクションによって形成されているためです。

- 熊本県立美術館が独自に収集した、通称「Kコレクション」
- 熊本の教育者・永野一成氏が収集した、通称「Nコレクション」(主に館外持ち出し用)
- 浜田知明本人から寄贈を受けた、通称「Hコレクション」

※ただし、HコレクションはAP版などが多いた

●「公立美術館活性化事業」に関する問い合わせ
総務部　高野
Tel. 03-5573-4184

●各事業の詳細については、実施要綱をご確認ください。各実施要綱および申請書類は、当財団ホームページからダウンロードできます。
https://www.jafra.or.jp/

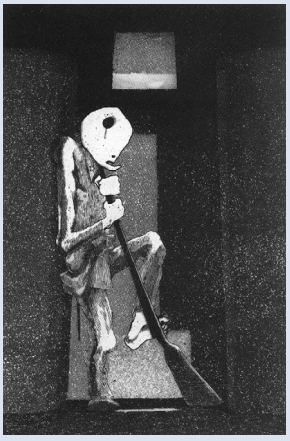
●浜田知明について

浜田知明(1917～2018)は、戦後日本を代表する銅版画家・彫刻家として知られています。熊本県に生まれた浜田は、弱冠16歳で東京美術学校(現・東京藝術大学)に入学。藤島武二教室で油絵を学ぶ一方で、同時代のシュルレアリスム絵画や抽象絵画に刺激を受けながら青年時代を過ごしました。しかし時代が戦争へと向かう中、浜田は卒業後間も無く徴兵。過酷な初年兵時代を過ごした後には、中国・山西省で戦争を体験することになります。

1945年、日本が終戦を迎えると同時に、浜田は一度熊本に復員しますが、その後再度上京し、戦争体験の絵画化を試みます。その中で彼が出会ったのが、銅版画という技法でした。1950年には第1作となる銅版画作品《初年兵哀歌(芋虫の兵隊)》を制作。以後制作・発表した銅版画作品群は、戦争の悲劇を表現するものとして、国内のみならず海外でも高く評価されることになります。そしてこれらの作品群の中から、後に〈初年兵哀歌〉と名付けられるシリーズが形成されてゆくのです。

浜田知明といえば、戦争。代表作品群が〈初年兵哀歌〉であるが故に、しばしば彼の画業はそのように語られがちです。しかし、浜田の作品世界はより多様です。人間社会を風刺した、ユーモアたっぷりの作品もあれば、自らの内面を(どこか自虐的に)描き出した作品もあります。人間の顔や体の造形をシンプルな線描のみで描き出す実験的な作品もありますし、1983年から制作を開始した彫刻作品では、平面作品とはまた異なるモチーフへの関心も見られます。むしろそうした多様性を踏まえるならば、〈初年兵哀歌〉に関しても、従来とは異なる見方ができるかもしれません。本企画の開催が、浜田知明作品の新たな魅力の発見につながることを、期待します。

(熊本県立美術館 学芸普及課長　林田龍太)



左：《初年兵哀歌(歩哨)》(1954年)
右：《アレレ…》(1974年)
©Hiroko Hamada 2022/JAA2200079

め、貸し出しは最小限となります

また、作品以外の資料の中には、銅版画の原版、銅版画作品の試刷、制作の元になったスケッチや下絵なども含まれています。これらの資料は、浜田知明の知られざる側面をも明らかにし得るものと言えるでしょう。熊本県立美術館よりご提供いただいた所蔵作品リストをご覧になりたい場合は、地域創造へお問い合わせください。ご応募お待ちしております。

[Ⅱ-①]令和5年度準備・6年度開催「公立美術館共同巡回展開催助成事業(2か年プログラム)」
[Ⅱ-②]令和5年度開催「公立美術館共同巡回展開催助成事業(単年度プログラム)」

3館以上の公立美術館が共同で自主的に企画する、公立美術館の所蔵品を活用した共同巡回展に対し助成します。

「2か年プログラム」は、令和5年度に企画の具体化や調査研究、出品交渉やカタログ編集等の準備作業を行い、令和6年度に巡回展を開催する事業を対象とし、準備年度150万円、開催年度2000万円を上限に助成します。(なお、開催年度助成金については、決定額の50%までの前金払い請求が可能です。)

「単年度プログラム」は、令和5年度に開催される共同巡回展について、A.作品借用・展示関連経費への助成と、B.図録作成経費への助成のどちらかをご選択いただき、A.については500万円、B.については300万円を上限に助成します。

[Ⅲ]令和5年度実施「公立美術館共同巡回展企画支援事業」

2館以上の公立美術館による、「公立美術館共同巡回展開催助成事業」の申請に向けた、企画内容の検討や調査研究等の取り組みを支援します。学芸担当者会議の開催や調査活動のための経費に対し、100万円を上限に助成する他、アドバイザーの派遣、会議室の提供、他の参加館募集の告知等による支援も行います。

[Ⅳ]令和5年度実施「公立美術館共同地域交流プログラム助成事業」

2館以上の公立美術館が共同で企画する、公立美術館の所蔵品を活用した地域交流プログラムの実施に対し、100万円を上限に助成します。参加館や他の公立美術館のコレクションを活用した展覧会(異なる展覧会も可)に関連し、各館の展示内容やテーマ(作家、素材、技法、様式、モチーフなど)をもとに自主的に企画・実施される地域交流プログラムが対象です。

事業名		対象となる美術館(＊1)	申請について	助成措置		
				助成率(＊2)	上限額	助成期間
[Ⅰ]	市町村立美術館活性化事業	市区町村(政令指定都市を除く)の設置する美術館	参加を希望する各市町村立美術館より申請 ※開催年度は実行委員会より申請	準備年度:10/10 開催年度:2/3	準備年度:100万円 開催年度:1,200万円	2年間
[Ⅱ-①]	公立美術館共同巡回展開催助成事業 (2か年プログラム)	都道府県、政令指定都市、市区町村の設置する美術館	3館以上 申請事業に参加する各公立美術館が申請(代表館が取りまとめる) ※開催年度は実行委員会より申請	準備年度:2/3 開催年度:2/3	準備年度:150万円 開催年度:2,000万円	
[Ⅱ-②]	公立美術館共同巡回展開催助成事業 (単年度プログラム)		3館以上 申請事業に参加する各公立美術館が申請(代表館が取りまとめる)	2/3	作品借用・展示関連:500万円 カタログ作成関連:300万円	1年間
[Ⅲ]	公立美術館共同巡回展企画支援事業		2館以上 申請事業に参加する各公立美術館が申請(代表館が取りまとめる)	10/10	100万円	
[Ⅳ]	公立美術館共同地域交流プログラム助成事業		2館以上 申請事業に参加する各公立美術館が申請(代表館が取りまとめる)	10/10	100万円	

＊1　公立美術館活性化事業における美術館とは、博物館その他を含め、美術作品の公開および保管を行う施設をいいます。
＊2　[Ⅰ]の開催年度および[Ⅱ]-①については、対象経費の合計額から収入を控除した額に対する助成率です。その他については、対象経費の合計額に対する助成率となります。

◎[Ⅰ]「市町村立美術館活性化事業」参加申し込み方法

参加を希望する市町村立美術館が、直接地域創造に申し込みます(各美術館の設置者である地方公共団体の長の副申が必要です)。なお、参加決定後に共同巡回展実行委員会を設立していただきます。また、事業の参加に当たっては、準備年度に開催される実行委員会・学芸担当者会議への出席にかかる経費等についての予算措置が必要です。

◎[Ⅱ-①]「公立美術館共同巡回展開催助成事業(2か年プログラム)」申請方法

- 準備年度:各参加館が申請します。申請書類一式を代表となる館が取りまとめ、直接地域創造へ提出してください(各美術館の設置者である地方公共団体の長の副申が必要です)。なお、助成決定後に実行委員会を設立していただきます。
- 開催年度:準備年度に助成決定を受けた共同巡回展実行委員会より申請します。

◎[Ⅱ-②]「公立美術館共同巡回展開催助成事業(単年度プログラム)」申請方法

各参加館が申請します。申請書類一式を代表となる館が取りまとめ、直接地域創造へ提出してください(各美術館の設置者である地方公共団体の長の副申が必要です)。なお、助成決定後に実行委員会を設立していただきます。

◎[Ⅲ]「公立美術館共同巡回展企画支援事業」および[Ⅳ]「公立美術館共同地域交流プログラム助成事業」申請方法

各参加館が申請します。申請書類一式を代表となる館が取りまとめ、直接地域創造へ提出してください(指定管理者制度を導入している施設の場合に限り、設置者である地方公共団体の長の副申が必要です)。なお、実行委員会の設立は必要ありません。

＊地域創造レターは再生紙を使用しています

熊本県宇城市

不知火美術館・図書館

KOSUGE1-16《未完星［mikən-sei］》

上：不知火美術館・図書館外観
中：こども絵本のいえの前にある芝生広場
下：《未完星[mikən-sei]》展示風景（左が巨大サッカーゲーム）

●不知火美術館・図書館リニューアルオープン記念展
KOSUGE1-16《未完星[mikən-sei]》
[主催]宇城市教育委員会
[会期]2022年4月3日～6月4日
[会場]宇城市不知火美術館・図書館

●不知火美術館・図書館
1999年に不知火文化プラザとして開館。北川原温が設計した不知火海の蜃気楼現象「不知火」をモチーフにしたファサードが特徴で、マナブ間部、野田英夫、河野浅八など地元ゆかりの作家の作品を約400点収蔵。2005年に宇城市の所管になり、宇城市立不知火図書館、次いで宇城市立中央図書館と名称変更され、2022年4月から現在の不知火美術館・図書館としてリニューアルオープンした。

熊本市中心部からJRで約20分、宇城市の不知火美術館・図書館が2022年4月にリニューアルオープンした。蔦屋とスターバックスで知られ、近年、公立図書館運営にも意欲を見せるカルチュア・コンビニエンス・クラブ（CCC）が指定管理者となり、初の美術館運営に乗り出し注目されている。人口減と財政難に悩む地方自治体と民間企業の連携の現場を取材した。

●

同館は、1999年に旧不知火町立不知火文化プラザとして開館し、現在は2005年の合併で誕生した宇城市が所管している。CCCが設計・内装に計画段階から参加し、本館の外観や躯体は開館当時のままで前庭を芝生広場として整備。熊本地震時の仮設住宅と集会所を再利用した「こども絵本のいえ」（約1.1万冊の絵本を収蔵）を開設。スターバックスが併設された本館図書館には天井までの書棚に囲まれた学習スペース（170席）が設けられ、飲み物可で一部ベストセラーの販売も行われている。

カフェを挟んだ反対側が美術館で、KOSUGE1-16による展覧会《未完星[mikən-sei]》が開催されていた。入口には体験型の巨大サッカーゲームがあり、市民から公募した「未完成な物」（編みかけのセーター、描きかけの絵など）をエピソードと共に展示。「何かをつくりたい」という誰もがもっている衝動を示すことでアーティストと市民の垣根を取り払い、館全体のコンセプトである「誰もが創造性を育み、発揮する美術館・図書館」を具現化した展示になっていた。

CCCを指定管理者に選定した背景を、美術館館長でもある宇城市教育部生涯学習課の成松英隆さんは、「市の人口は5万8千人。1955年から22%減り、特に若い世代が熊本市などに流出している。子育て世代や若い世代にとって魅力的な文化施設にするために民間の発想と活力が必要だった」と話す。

宇城市では2015年から公共施設の管理見直しに着手し、保育園や市民病院の民営化を進めてきた。同館も、年3回の企画展とコレクション展、移動図書館や読み聞かせなどの従来業務の引き継ぎを明記した仕様書により、2020年10月に図書館分館3館を含めた指定管理者を募集。11月にCCCに決定し、12月上旬には議会決定するというスピードで進められた。

指定管理者に決定後、2021年4月にCCC公共サービス事業本部宇城プロジェクト統括マネージャーの瀬川優希さん（現・図書館館長）、5月に新規採用された学芸員の里村真理さんが現地に移住。もう1人の社員と共に元・小学校の校長室を拠点に市民アンケートやキーパーソンへのインタビューなどで事前調査を開始した。

「カフェや公園の要望が多く、また、美術館・図書館は敷居が高くて特に子ども連れには行きにくいことが見えてきた。CCCでは公共施設の管理運営は社会貢献としてとらえており、正直、指定管理料だけでこの施設を維持することはできない。カフェの売り上げが活動を支えているので、出店する立地、空間として相応しいかどうかを評価している」と瀬川さん。結果、天草への通り道である宇城市の立地を活かして人を呼び込むとともに、「居心地のいいライブラリー」「体験型の企画展」「まちの人とつながるプロジェクト」など9つの方針を立て、内装設計から運営の実務まで組み立てていった。

また学芸員の里村さんは日比野克彦の個人事務所や芸術祭、大学などでアートプロジェクトに携わり、十和田市現代美術館の学芸員補を経て熊本に移住した。「最初の企画展は、地域と積極的に関わる作家と考えたいと思い、KOSUGE1-16に依頼した。地元の農家をリサーチして、害獣と人間という関係を超えようとする活動を表現したサッカーゲーム、特産の蜜柑をもじった展覧会《未完星》が生まれた。これからも地域と繋がる展覧会を考えたい」。

大人は300円で会期中何度も入館でき、中学生以下は無料。図書館は夜9時まで年中無休。コロナ禍の影響があったにもかかわらず、圧倒的なブランド力を誇るカフェの出店効果もあり、開館1カ月で利用者は約5万人。リニューアル前の年間利用者約4万人をすでに超えた。多くの人で賑わう風景を見ながら、「公共性」についていろいろなことを考えた取材だった。

（アートジャーナリスト・山下里加）